

- 第2回 -

JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2016
ウッドデザイン賞 2016

応募お申し込みのご案内



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2016

募集期間 2016年6月20日(月)–7月27日(水)

審査費用:無料

募集期間を延長しました

<http://www.wooddesign.jp>

主催 ウッドデザイン賞運営事務局
(林野庁 補助事業)

ウッドデザイン賞は、木の良さや価値を再発見させる製品や取組について、建築、木製品、取組、技術、研究など木材利用促進につながるすべてのモノ・

創設の趣旨

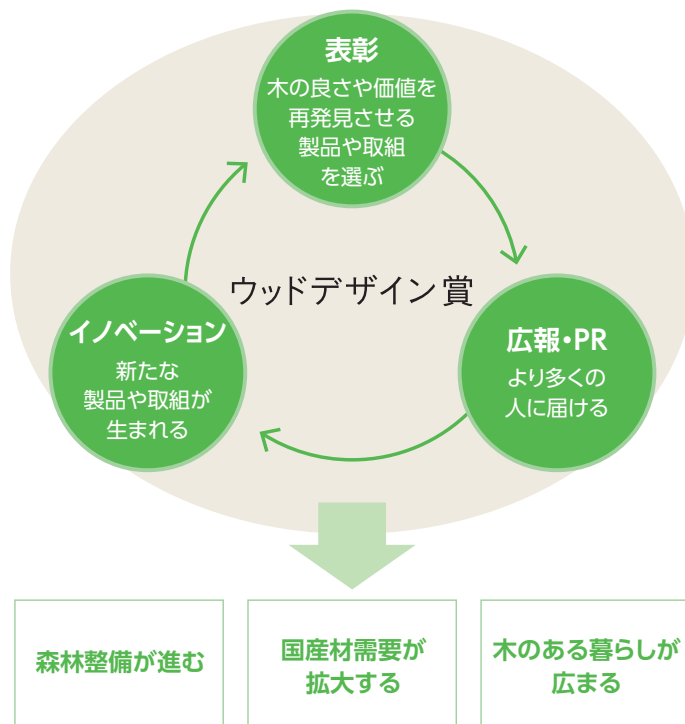
我が国においては、戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎えており、適正な森林整備を進めていくためには、国産材の積極的な利用を促進していくことが重要です。

ウッドデザイン賞は、木の良さや価値を再発見させる製品や取組について、特に優れたものを消費者目線で評価し、表彰する新しい顕彰制度です。

これによって“木のある豊かな暮らし”が普及・発展し、日々の生活や社会が彩られ、木材利用が進むことを目的としています。

受賞者には、様々な広報・PRの場を提供するとともに、生産から消費に関わる人のマッチングを進めていきます。

ウッドデザイン賞の目指すもの



表彰部門

ウッドデザイン賞は以下の3つの表彰部門を設け、消費者目線の木の良さや価値を持つ優れた製品や取組を表彰します。部門については、応募作品の特徴・内容と評価してほしい価値に合わせ、エントリーの際に応募者自らが選択します。

ライフスタイル デザイン部門

木を使って暮らしの質を高めているものが対象

木を使うことで機能性や利便性を高めている、新しい領域で木の活用が提案されている、消費者に木のある豊かな暮らしを提案している、建築、空間、木製品、取組、技術、研究など。

ハートフル デザイン部門

木を使って人の心を豊かにし、身体を健やかにしているものが対象

木を使うことで快適性を高めたり、五感や感性に働きかける、リラックス効果や健康増進効果がある、作り手や担い手のストーリー性を伝えている、建築、空間、木製品、取組、技術、研究など。

ソーシャル デザイン部門

木を使って地域や社会を活性化しているものが対象

木を使うことで地域や森林の活性化に貢献している、持続可能な森林利用の仕組みを生み出している、木材利用の意味を啓発したり、人材育成をしている、建築、空間、木製品、取組、技術、研究など。

特に優れたものを消費者目線で表彰し、木材利用を促進する顕彰制度です。
コトを応募対象としています。

応募対象分野

木に関するあらゆるモノ・コトが応募可能です。

応募対象分野及びサブカテゴリを選んでエントリーしていただきます。

分野	中分類	サブカテゴリ
建築・空間 建材・部材分野	店舗・施設関係	店舗・商業施設、オフィス・会議施設、ホテル・旅館、学習施設、保育園・幼稚園、学校、病院・福祉施設、公共施設、モデルハウス・ショールーム、屋内空間
	住宅関係	戸建・注文住宅、量産型住宅、集合住宅
	内外装関係	内装木質化、リノベーション
	パブリックスペース	公園、造園・緑化
	建材・部材	構造材、床・壁・内外装材、開口部(窓・ドア)、インテリア、エクステリア
	その他	その他
木製品分野	一般消費者向け	家具、雑貨・日用品、キッチン・食器、容器・パッケージ、寝具、照明器具、遊具・玩具、文具、楽器、伝統工芸品
	事業者・施設向け	設備、大型遊具
	その他	その他
コミュニケーション 分野	各種活動・広報PR	イベント・ワークショップ(単発)、イベント・ワークショップ(継続)、普及・啓発(システム)、普及・啓発(ツール・メディア)、プロモーション(単発)、プロモーション(継続)
	パートナーシップ	ビジネスモデル、仕組み・ネットワーク(生産・加工・流通・販売をつなぐもの)、制度・条例(生産・加工・流通・販売をつなぐもの)、マッチング・サポート体制
	人材育成・人材開拓	教育・研修システム、資格・制度、イベント・表彰、ワークショップ(人材育成)、ワークショップ(人材開拓)
	その他	その他
技術・研究分野	技術	新たな工法・素材活用の技術、新たな製造・加工の技術、新たな流通・販売の技術、その他の技術
	調査・研究	木材利用の機能や快適性を高める調査・研究、木材利用の環境や社会性を高める調査・研究、木材の流通や販売促進に寄与する調査・研究、その他の調査・研究
	試作物	試作品、展示用製作物、実験住宅・施設、その他試作物 (市場にはまだ流通していないが、各種の技術・研究・素材・設計によって実際に制作されたもの)
	その他	その他

ウッドデザイン賞の構成

ウッドデザイン賞は以下の構成によって実施されます。第二次審査を通過した作品には「ウッドデザイン賞」が付与されます。
ウッドデザイン賞受賞作品の中から、最終審査を経て、最優秀賞・優秀賞・奨励賞が選出されます。

最優秀賞 1点 全部門において最も優れたもの

ライフスタイルデザイン部門

優秀賞 数点

当該部門において特に優れたもの

奨励賞 数点

今後に期待できるもの、優秀賞候補になりえるもの

ハートフルデザイン部門

優秀賞 数点

当該部門において特に優れたもの

奨励賞 数点

今後に期待できるもの、優秀賞候補になりえるもの

ソーシャルデザイン部門

優秀賞 数点

当該部門において特に優れたもの

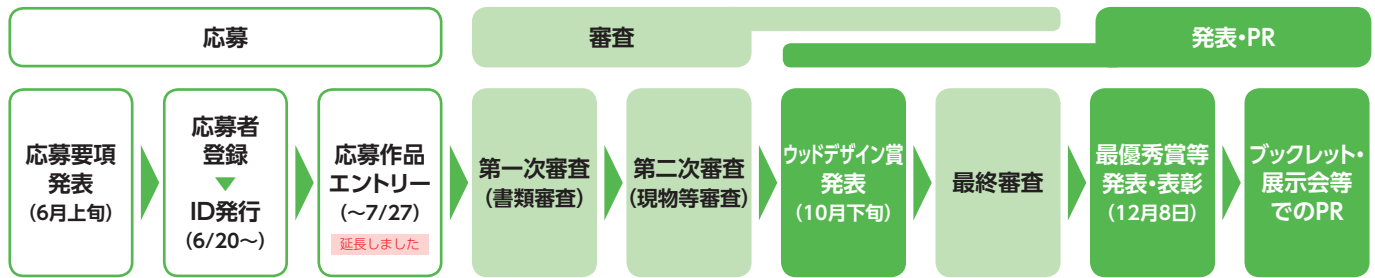
奨励賞 数点

今後に期待できるもの、優秀賞候補になりえるもの

最終審査
により選出

ウッドデザイン賞(入賞) 第二次審査を通過したものすべて

ウッドデザイン賞の主な流れ



受賞後の展開

ウッドデザイン賞の受賞作品は以下の特典、広報が受けられます。

●ウッドデザインマークの使用

・ウッドデザイン賞を受賞した作品は、ウッドデザインマークの使用が認められます。マークを表示することで受賞の成果を訴求することができます。

●「エコプロ2016」における発表、表彰及び広報

・最優秀賞等の発表、表彰、及びウッドデザイン賞の受賞作品の展示を「エコプロ2016」(発表・表彰は2016年12月8日、展示は12月8~10日・東京ビッグサイト)にて行います。

・同展では受賞者によるプレゼンテーション、交流会なども企画予定です。詳細はウェブサイトにて発表します。

※主催者による受賞作展示はスペースが限られるため、幅広く来場者へのアピールしたい場合は、各応募者側での出展をお薦めします。

●「ウッドデザイン コンセプトブック2016」の製作

・ウッドデザイン賞の受賞作品を全点掲載したブックレットを製作し、受賞者とともに自治体や関連業界へ配布します。受賞作品の広報・PRにお使いいただけます。

●展示会での広報

・各地域で実施される展示会、交流会等で受賞作品の展示及びPRを行います。

(2015年度には、「木と住まいの大博覧会」や「国際ホテル・レストランショー」など全国の展示会や団体の会合などで、受賞作品を紹介する展示・セミナー等を実施しました)

●メディア・流通小売との連携企画の推進

・メディアや流通小売業と連携して、ウッドデザイン賞の趣旨を伝えるとともに、受賞作品の掲載・露出・PRを積極的に行います。

(2015年度には、東京スカイツリー「東京ソラマチ」での展示、「ロフト(東京ソラマチ店)」をはじめ各地で展開しました)

ウッドデザイン賞運営事務局は、特定非営利活動法人 活木活木(いきいき)森ネットワーク、公益社団法人 国土緑化推進機構、株式会社ユニバーサルデザイン総合研究所の3者から構成されるウッドデザイン賞の運営及び関連事業を推進する組織です。

審査委員会 (敬称略・※印は分野長)

審査委員は変更になることがあります。

審査委員長

赤池 学(プロジェクトデザイナー、科学技術ジャーナリスト)

建築・空間・建材・部材分野

隈 研吾(建築家、東京大学 教授)※

腰原 幹雄(東京大学 生産技術研究所 教授)

鈴木恵千代(空間デザイナー)

手塚 由比(建築家)

木製品分野

益田 文和(プロダクトデザイナー)※

末吉 里花((社)エシカル協会代表理事)

高橋 正実(デザイナー、コンセプター)

三谷 龍二(木工デザイナー)

コミュニケーション分野

日比野克彦(アーティスト、東京芸術大学 教授)※

戸村 亜紀(クリエイティブディレクター)

古田 秘馬(プロジェクトデザイナー)

山崎 亮(コミュニティデザイナー、東北芸術工科大学 教授)

技術・研究分野

伊香賀俊治(慶應義塾大学大学院 教授)※

相茶 正彦(木材・バイオマス利用コンサルタント)

青木 謙治(東京大学大学院 講師)

恒次 祐子(森林総合研究所 主任研究員)

詳しくは「応募要項」をご覧ください。

ホームページでメール登録すると最新情報が届きます。

<http://www.wooddesign.jp>

各種お問い合わせ先: ウッドデザイン賞応募受付担当

TEL:03-5777-3128 FAX:03-6740-8333 お問い合わせ専用メールアドレス: info2016@wooddesign.jp

※上記アドレスはお問い合わせ専用です。こちらへの応募は無効となりますのでご注意ください。